

これがピンビーPROJECTの関係者だ。写真手前から左からやつ担当
いらっこ、ライター半谷奥さん、二段目左からスピードジャパン北村、
BIS山崎父、BISマモル、カメラの森口、エフロード古Q、ライター半谷、
日栄自動車鈴木、小野さん、三段目左からBIS高木メカ、そしてスピー
ドジャパン小澤だ。小澤さん、体調悪くて顔が青白いんですけど…。

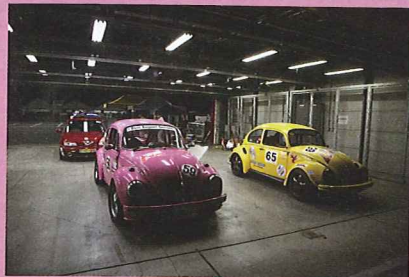


F-ROAD SUPER-BEETLE PROJECT

ピンビーやったぜ！ クラス4位入賞だ！

ピンビーがようやく完成したのはレース前日、16日の午後11時。
12時にはゲートオープンで、テント設営に受付に車検にと準備は忙しい。
完成したピンビーをトランポに載せ、いざツインリンクへと出発だ！
スタートは17日の8時。みんなの努力の結果、無事グリッドへと辿り着いた。
ぶっつけ本番、果たして目標の完走は!? ま、クラス4位だけだね。

文●半谷範一、チーム59 撮影●森口信之、村上豊 イラスト●ヒロ・コジマ



**ぶっつけ本番で12時間耐久に挑む！
トップバッターはBISマモルくんだ！**
深夜2時にツインリンクに到着するやテント設営など12
時間に及ぶ長丁場の準備に入る。真夜中のピットにビートルが2台、実に美しい。そして参加95台の中、抽選で15番
グリッドをゲットしチーム関係者全員で記念撮影。12時間
後にも同じ笑顔でピンビーを囲めるように誓う。一番手のド
ライバーはピンビーPROJECTの総責任者であるBISの若
息子マモルくん。自身ゴルシェで草レースを楽しんでいる
だけに、腕には相当の自信あり。クルマの調子もみる。



各チーム美しいキャンギャルを用意！エフロードチームだって…

参加チーム数95。みなさん楽しげにレースを楽しみます。中には本格的にこんなキレイこを揃えて
るチームもあります。我がエフロードチームだって負けてねーぞ。現役のツインリンクもてぎエンジェルが
カレー作ってるかんね。カメラの森口と一緒に。一番左はライター半谷の奥さん万紀さん。右の二人だ
けど不安だが、万紀さんの「野菜いっぱい夏カレーにしましょう」の言葉に一同安心。



idlers Games 夏の12時間耐久

12時間+9分を完走!

涙ちよちよ切れそう

……てなわけで、レース当日の早朝、不安な気持ちでツインリンクもてぎに到着してみたら、オオオツ、あつたよ。ピンビ、ちゃんと完成してピットに並んでるよ。

BISの山崎社長、マモル君、高木メカニック、森口メカニック（旧森口カメラマン）のまさに不眠不休の奮闘の賜。私がサーキットに到着したときには、全員ボロボロになって爆睡しておりました。実は前ページとこのページの間に色々あったのですが、まあその話はいずれ別のチャンスにでも書かせていただくことにしましょう。

今回は12時間+9分という長丁場なので、いつものレギュラーメンバー7人だけじゃ面々が足りません。そこで何人か助っ人をお願いすることにした。ドライバーとしてはこのクルマを塗ってくださった福島の日栄自動車の鈴木社長、スピードジャパンのスタッフである北村さん、スピードジャパン・チームの耐久ドライバーでもある小野先生、ウチのカミさんのクラッシュ・マキの4名を加えた11名。サポートのスタッフとしては高木メカニック、森口ジュニアと古Q編集長ジュニアの中学生コンビ。さらにメカ

森口に代わって撮影を担当する村上カメランの総勢14名。家族まで巻き込

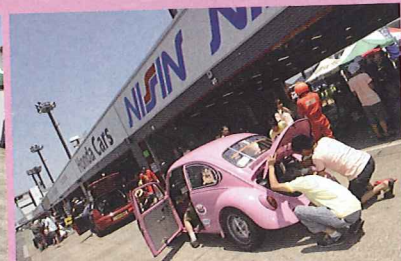
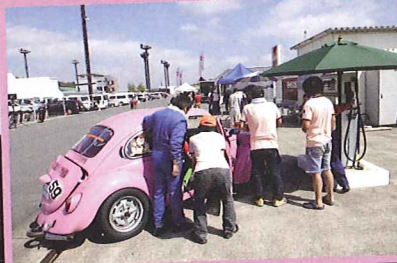
んだまさに総力戦です。

今回は事前のテスト走行がほとんど出来ないという状況でしたし、当然のことながら目標は「完走」です。さすがに全開走行ではエンジンがもたないで、エンジン回転数を4000〜4500rpmとすることで油温を抑え、なんとか12時間を走りきるという作戦で行くことにしました。

最初は好調だったものの、クラッシュ・マキが乗っているときに最初のトラブル発生。レッカーのお世話になりました。その後も原因が判然としないパワーダウンで一時はスペアエンジンへの載せ替えまで検討したものの、何とか修理。その後は大きなトラブルもなく12時間と9分走り切ることができました。最終ドライバーのマモル君が走っているときには、もう皆で祈るような気持ちでモニターに見入っていましたね。ゴールした瞬間にはちよつとウルウルしちゃいましたよ。

で、結果ですがなんとクラス8台中で4位という望外の好成績！ まさかこのような結果になるとは思っていま





給油はガソリンスタンドで どうせ5分間のストップだし...

8時スタートでマモルくんが快走し、どうやらクルマの方も大きな問題はない様子。燃費も良さそうだし、油温もMAX4500回転位をキープしていれば大丈夫そうだ。5000回転でシフトアップをしつつ、油温の上がり具合で4500、4000回転と変更していく作戦。2番手に小野さん、そして鈴木さん、北村さんの順でドライバーチェンジ。エフロード古Qの出番は後半戦。みんながバテた頃に登場するのがヒーローってものでしょ! ね、森口カメ!



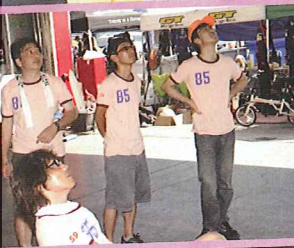
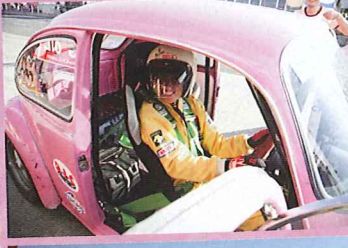
突然コース上にピンビー停止!? やはり頼りになるのはBISのこの2人。

BIS山崎父とマモルくんが素人集団の合間にドライブしてクルマの状態をチェックする作戦。各自30分から40分を目処にチェンジ。給油はドライバー交代2回に1回のペース。1回給油で20分、停止5分。中盤まで順調だったが、ライター半谷奥さんのドライブ中、突然のエンジンストップ。レッカーされるピンビー。しかし、ここからがVW専門店BISの腕の見せ所。父と息子であっという間に復活。半谷奥さんから旦那さんへとバトンタッチされ、ピンビーはコースへと復活。



一番のニュースは A級ライセンス所持者のいらっこ走行に有り!

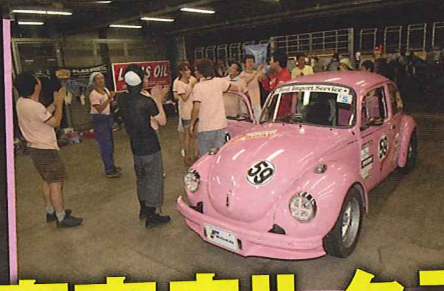
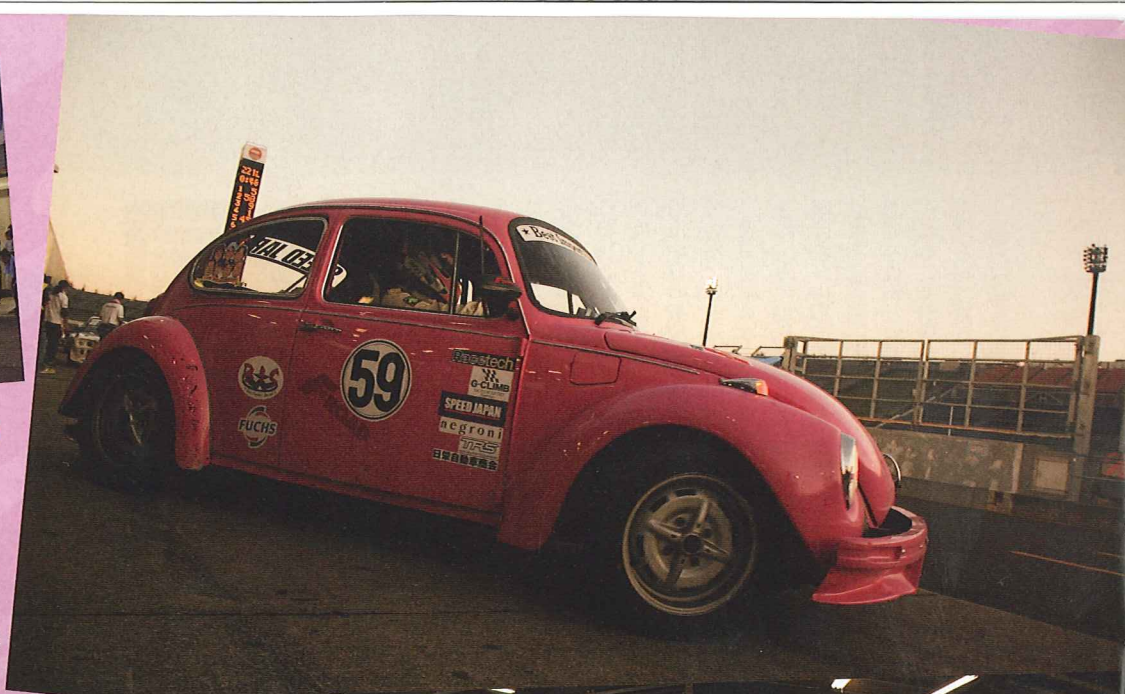
12時間、色んなことがありました。が、最大のニュースは超緊張してバトンを受けコースインしたいらっこの走り。ベースカーが入り5番手にて数周。そしてベースカーが最終コーナーでピットに入った瞬間、ピンビーの前の4台は猛然とダッシュ。グリーンフラッグの振られるメインストレート中央までは追い越し禁止だが、追い越さない限りスピードは出してOK。なのにピンビーに乗るいらっこはマイペース走行。5番手を走っていたため、6番手から後ろ、約90台の他のマシンはピンビーを抜けずにイライラ。モニターで見ていた我々チームメンバーは全員「?」。結局最終コーナーからコントロールタワーまでの距離、ピンビーを先頭に後続集団が横にずらりと並ぶバレードランの様相。グリーンフラッグを通過した瞬間、右から左から全員にブチぎられるピンビー。ピットは爆笑に包まれました。さすがA級ライセンス!





**二度にわたるエンジン停止を乗り越えて
無事12時間完走! 結果クラス4位をゲット!**

各自担当の周回を終え、残すは後1時間半。ここまで何とか無事にやってきた。スピードジャパン北村からバトンを受け取りエフロード古Qが薄暗くなったコースへと飛び出した。残り1時間を切ったところで最終走者マモルくんは夢を託す。ここまで全員が頑張ってきた。回転数を守り、燃費を稼ぎ、クルマを労りながら走ってきた。最後の1時間で、ガソリンも十分にある。クルマを仕上げてBISマモルくんは全力で走りきってもらおう。結果、無事完走。クラス4位をゲットだぜ。クラス何台中? 総合何位? 野暮なことを聞いちゃいけませんぞ旦那!



ぶっつけ本番で見事完走!! クラス4位!!
これにてピンビーPROJECTファーストシーズン終了
次号からはセカンドシーズンがスタート!?

**お疲れ様
でしたあ!**

